

2025 年 4 月 図書館 利用状況	開館日数	利用者数		貸出者総数	貸出総冊数	452 冊
	18 日	昼休み	132 人	391 人	1 年	398 冊
		放課後	117 人		2 年	7 冊
		見学 その他	384 人		3 年	18 冊
					職員	29 冊

月に一冊 読書する！
月に一回 図書館に行く！
ブラリといこう！
みんなの双星ライブラリ！

新入生全員が 本の貸出体験をしました。
読書できましたか？ 次の一冊へと、読書
を続けていきましょう。よい本との出会いは、
自分の世界をひろげ、人生を豊かにしてくれ
ます。楽しい読書ライフをはじめよう。
そして 自分の**推し本**を見つけよう！

2025 年度 図書委員会アピール

★もっと身近に 本のあふれる空間を
★本を手にする 彩る あなたの世界

発表しよう

アウトフットの間
ビブリアトーク

6月10日(火)

15:40~16:20

おすすめの本を紹介しよう
感動した本を発表しよう

参加者募集！

★中間考査に向けて、5月12日(月)から、
17:30まで、自習場所として図書館を利用できます。

☞中間考査前一週間：5月12日(月)～16日(金)

図書館開館時間：8:40～17:30

☞中間考査：5月19日(月)～23日(金)

図書館開館時間：8:40～17:00

(20日(火)職員会議中は閉館します)

★★★★★★新 着 図 書 案 内★★★★★★

『僕たちの青春はちょっとだけ特別』



雨井 湖音/著

東京創元社

中学時代、流されるままぼんやりと過ごしてきた青崎架月。15歳の春、この明星特別支援学校に進学したことで、ちょっとずつ変化が。先輩が巻き込まれたゴミ散乱事件、教室のロッカー移動事件、生徒失踪事件を周囲の手を借りながら解決していく。

『バイト・クラブ』 小路 幸也/著



中央公論新社

通称「バイト・クラブ」のための部室に集まるのはそれぞれの事情で、「暮らし」のためにアルバイトをする高校生たち。飲み食いは無料。カラオケも無料。ゲームをしようが勉強しようが寝ようが泣こうが自由。部活に入っていないくても、彼女らなりの青春を謳歌していた。でもある日、そんな日常を一変させるような事件が起こる

『月とアマリリス』 町田そのこ/著



小学館

北九州市の高蔵山で白骨化した遺体が発見された。地元のタウン誌でライターとして働く飯塚みちるは、そのニュースを知る。遺体と一緒に花束らしきものが埋められ、メモが入っていた。『ありがとう、ごめんね。みちる』自分と同じ「みちる」という名前、すべてから逃げたままの自分でいいのか。みちるは、この事件を追うことを決めた。

『カフネ』 阿部暁子/著 講談社



2025 本屋大賞

おいしいと思える。ただそれだけで、うれしい。法務局に勤める野宮薫子は、溺愛していた弟が急死して悲嘆にくれていた。弟が遺した遺言書から弟の元恋人・小野寺せつなに会い、やがて彼女が勤める家事代行サービス会社「カフネ」の活動を手伝うことに。弟を亡くした薫子と弟の元恋人せつな。食えることを通じて、二人の距離は次第に縮まっていく。

『小説』 野崎まど/著 講談社



本屋大賞 第3位

読むだけじゃ駄目なのか。5歳で読んだ『走れメロス』をきっかけに、内海集司の人生は小説にささげられることになった。12歳になると、内海は小説の魅力を共有できる生涯の友・外崎真と出会い、二人は小説家が住んでいるというモジャ屋敷に潜り込む。その屋敷にはある秘密があった。

『坂の中のまち』 中島京子/著



文藝春秋

江戸川乱歩『D坂の殺人事件』の別解(?!), 遠藤周作『沈黙』の切支丹屋敷に埋まる骨が語ること、安部公房『鞆』を再現する男との邂逅、夏目漱石『こころ』みたいな三角関係。風変わりな人たちと、書物がいろいろするガールミーツ幽霊譚。

『青春サブリ。新しい 一步を踏み出す』



青木美帆/著 ポプラ社

バスケットが大好きだった僕・原匠(東大阪市立上小阪中学校→近畿大学附属高校→慶應義塾大学)が、ずっと欲しかったもの。最高の仲間と味わう、最高の瞬間。悩める10代必読! 共感必至の部活ストーリー

『17歳のサリータ』 講談社



実沙沙枝子/著

新菜は高校をやめた。親友と自分へのいじめを知りながら放置した学校に失望したからだ。孤独な日々を送る彼女は、ある日、プロのフラメンコダンサー玲子・カンタオール(歌い手)ジョージと出会う。二人の誘いでフラメンコを始めた新菜。玲子の優しさとジョージの歌に触れながら、止まっていた新菜の人生は再び時を刻みはじめる…。

『夜の日記』 ヴィーラ・ヒラナンダニ/著



作品社

イギリスからの独立とともに、ふたつに分かれてしまった祖国。ちがう宗教を信じる者たちが、互いを憎みあい、傷つけあっている。少女とその家族は安全を求めて、長い旅に出た。自分の思いをことばにできない少女は亡き母にあてて、揺れる心を日記につづる。

『「コーダ」のぼくが見る世界
聴こえない親のもとに生まれて』
五十嵐 大/著 紀伊國屋書店



コーダ(CODA)＝聴こえない/聴こえにくい親のもとで育つ、聴こえる子ども。もし、親の耳が聴こえたらーなんて、想像もつかなかった。ときに手話を母語とし、ときにヤングケアラーと見なされて、コーダは、ろう者とも聴者とも違う複雑なアイデンティティを抱えて揺れ動く。

『世界99 上・下』村田沙耶香/著 集英社



性格のない人間・如月空子。空子の生きる世界には、ピョコルンがいる。ふわふわの白い毛、つぶらな黒い目、甘い鳴き声、どこをとってもかわいい生き物。当初はベットに過ぎない存在だったが、やがて技術が進み、ピョコルンとある能力を備えたことで、世の中は様相を変え始める。

『明日、晴れますように 七夜物語続』
川上弘美/著 朝日新聞出版



いまほど世の中の仕組みが複雑ではなかった一九七〇年代。『七夜物語』という不思議な本の世界を冒険した子どもたちがいた。嶋海さよと灰田鷹彦。あれからおよそ三十年一。さよの息子「絵」と灰田くんの娘「りら」は、両親と同じ小学校でクラスメートになっていた。二人もまた『七夜物語』の世界へと導かれるのか？

『正しく疑う 新時代のメディアリテラシー』
池上 彰/著 Gakken



悪ふざけ投稿、誹謗中傷、炎上…。いまや誰もが発信者、気を付けないと自分が加害者になることもあります。また、フェイクニュースやデマも多く情報の受け取り方にもコツが必要です。情報との向き合い方、発信方を池上彰がわかりやすくナビゲートします。

『頭のいい人だけが知っている世界の見方』西岡壺誠/著 KADOKAWA



スクランブル交差点は四次関数？日常から知識を得て賢くなれる！頭のいい人の視点を体感せよ！なぜあの人は勉強してないのに頭がいいの？著書累計90万部を超える東大生ベストセラー作家の最新作。

『猫と考える動物のいのち 命に優劣なんてあるの？』木村友祐/著



身の回りには色んな動物がいて、わたしたちは彼らと一緒に住んだり、敵対したり、食べ物にしたりして、共に生きている。わたしたちとは大きくちがう動物のこと、動物と人間社会のことを、猫たちと一緒に考えよう。

◆◆ ちくま Q ブックス ◆◆ ノンフィクション読書をはじめよう！ 知的冒険読書を応援します！

『AIにはない「思考力」の身につけ方
ことばの学びはなぜ大切なのか？』
今井むつみ/著 筑摩書房



「思考力」というと、なんだか難しいことのように感じられるかもしれない。しかし、私たちは今この瞬間に文章を読みながら、思考力を駆使している。そしてその時に頭の中で働いているのは、「推論の力」だ。この力は人間だけにありAIにはないものだ。

『人生が変わるゲームのつくりかた』



米光一成/著 筑摩書房
ゲームづくりの核は「場を楽しくするルール」を生み出すこと。それができれば、君の人生はもっとおもしろくなる。人気ゲームの開発者が、ゲームのつくりかたをイチから伝授。楽しさの仕組みを解明し、遊び、手と頭を動かして使いこなす、かつてないガイドブック！

『あなただけの物語のために
どうすれば自分を信頼できる？』
あさのあつこ/著 筑摩書房



世の中にあふれている誰かが描いた紛い物の物語。それらは時にあなたの行く手を阻んだりもする。その話はあなたの物語ではない。「書いたり」「読んだり」を通して、自分の内にあるあなただけの物語、あなただけの希望を見つけてみよう。

『自分につながるアート 美しいってなぜ感じるのかな？』
池上英洋/著 筑摩書房



人間は太古から今もお、絵を創作し、「美しさ」を追求してきた。「美術」とか「美しさ」とは何だろう？アートを切り口に人間らしさとは何かを考えてみよう。人間とアートは切っても切り離せない？！「美しい」と感じる動物は人間だけ？

『在日サッカー、国境を越える
国籍ってなんだ？』木村 元彦/著 筑摩書房



アン・ヨンハは、プロのサッカー選手になる夢を持つまったく無名の19歳の在日朝鮮人。選手権大会は予選敗退だし、Jリーグではチームに一人の「在日枠」を目指すしかない、日本代表には絶対なれないけど、走り続けた先には世界があった！国境を越えて輝く魂の物語。

『となりのヤングケアラー SOSをキャッチするには？』村上靖彦/著 筑摩書房



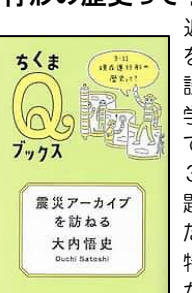
どんなときに「クラスメイトの中にヤングケアラーがいるかもしれない」と感じるだろうか。家事や介護だけでなく、精神疾患をもつ家族を助ける子どももいる。ヤングケアラーが近くにいたとき、何ができるか。“居場所”をキーワードに考えていく。

『科学はこのままでいいのかな
進歩？ いえ進化でしょ』
中村桂子/著 筑摩書房



科学で生活は便利になったけれど、効率や結果ばかり求められるのはどこおかしくないかな？何だか息苦しいよね。だって私たちは機械じゃなくて生きものなのだから。基本を変えずに、しかし驚くほどの多様性を生み出して38億年続いてきた「進化」を軸に、生きもの目線で私たちの未来を考えよう。

『震災アーカイブを訪ねる 3・11現在進行形の歴史って？』大内悟史/著 筑摩書房



近年、東日本大震災のようすを伝える「震災アーカイブ施設」「震災遺構」と呼ばれる学びの場が次々とオープンしている。福島・宮城・岩手の3県は地域によって抱える課題が異なり、住民たちが下した復興への決断も様々だ。特徴的な12施設をめぐるながら、震災から何を学び次の世代に語り継ぐか、考えていく。

『地べたから考える 世界はそこだけじゃないから』ブレイディみかこ/著 筑摩書房



日常にひそむ社会の問題を、自らのことばで表現し続けるブレイディみかこのエッセイ・アンソロジー。足を地に着けて世界を見る視線の強さを味わう15篇を精選。今、あなたの足元にはどんな問いが立っている？

2025本屋大賞第2位『アルプス席の母』(早見和真/著) 第4位『禁忌の子』(山口未桜/著) 第5位『人魚が逃げた』(青山美智子/著)

『5分後に意外な結末ex クリムゾンに染まる宮殿』(桃戸ハル/編著) 『5分後に意外な結末QUIZ』(一ノ瀬 究/編著)